

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成27年2月26日 (2015.2.26)

【公開番号】特開2013-142860(P2013-142860A)
 【公開日】平成25年7月22日 (2013.7.22)
 【年通号数】公開・登録公報2013-039
 【出願番号】特願2012-4145(P2012-4145)
 【国際特許分類】

G 1 0 H 1/00 (2006.01)

【 F I 】

G 1 0 H 1/00 B

G 1 0 H 1/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月7日 (2015.1.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2】

前記判定手段は、

前記ピークレベルと、前記波形の変化度合いを示す値とが所定の関係を満たす場合に、前記波形が打面の打撃に基づく波形であると判定する請求項 1 記載の打撃検出装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

請求項 2 記載の打撃検出装置によれば、請求項 1 が奏する効果に加え、ピークレベルと、波形の変化度合いを示す値とが所定の関係を満たす場合に、判定手段により、波形が打面の打撃に基づく波形であると判定されるので、例えば、弱い打撃に基づくピークレベルの小さい波形が、ノイズとして誤検出されることを防止できる。つまり、弱い打撃に基づくピークレベルの小さい波形を、ノイズとしてではなく、打面の打撃として検出できる。よって、弱い打撃に対する検出感度を向上させることができる等、打面の打撃に対する検出精度に優れるという効果がある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

入力部 1 5 は、パッド 5 1 に設けられた振動センサ 5 1 a を接続するインターフェイスである。振動センサ 5 1 a から出力されたアナログ信号波形は、入力部 1 5 を介して音源装置 1 に入力される。入力部 1 5 には、アナログデジタルコンバータ（図示せず）が内蔵されている。振動センサ 5 1 a から入力されるアナログ信号波形は、アナログデジタルコンバータによって所定時間毎にデジタル値に変換される。CPU 1 1 は、入力部 1 5 において変換されたデジタル値に基づいて、パッド 5 1 が打撃されたか否かの判定を行う。詳細

は後述するが、CPU 11は、入力波形のピークレベルが閾値L1（図3参照）を超えるか、入力波形のゼロクロス回数が所定回数を超えた場合に、パッド51が打撃されたと判断し、パッド51に対応する音色の楽音をピークレベルに応じた音量で出力するよう指示する発生指示を音源16へ出力する。